【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】平成17年4月21日(2005.4.21)

【公開番号】特開2003-223931(P2003-223931A)
【公開日】平成15年8月8日(2003.8.8)
【出願番号】特願2002-20394(P2002-20394)
【国際特許分類第７版】
　Ｈ０１Ｍ　10/40
　Ｃ０８Ｆ　20/44
　Ｃ０８Ｊ　 5/18
　Ｃ０８Ｋ　 5/16
　Ｃ０８Ｌ　33/20
　Ｃ０８Ｌ　61/06
　Ｃ０８Ｌ　63/00
　Ｈ０１Ｂ　 1/06
【ＦＩ】
　Ｈ０１Ｍ　10/40　　Ｂ
　Ｃ０８Ｆ　20/44
　Ｃ０８Ｊ　 5/18　　ＣＥＹ
　Ｃ０８Ｋ　 5/16
　Ｃ０８Ｌ　33/20
　Ｃ０８Ｌ　61/06
　Ｃ０８Ｌ　63/00　　Ａ
　Ｈ０１Ｂ　 1/06　　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成16年6月14日(2004.6.14)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３９】
【実施例】
以下に実施例を挙げ、本発明を更に具体的に説明する。
＜ポリマー電解質基材の作製＞
表１に示したアクリロニトリル単独重合体、アクリロニトリル系共重合体及び熱硬化性樹脂組成物を該表の配合量（重量％）に基づいて次の方法により製造し、実施例１～７および比較例１～３のポリマー電解質基材を作製した。
まず、アクリロニトリル単独重合体およびアクリロニトリル系共重合体を１－メチル－２－ピロリドン（ＮＭＰ）に添加し、１２０℃窒素雰囲気下で溶解した。なお比較例１および２においてはアクリロニトリル系共重合体を配合しなかった。更に、室温冷却後、実施例２～７及び比較例１、３においては、表１の配合量に従って熱硬化性樹脂組成物を添加し、溶解させた。得られた混合物よりなる塗布液を、ドクターブレード法によってポリエチレンテレフタレート（ＰＥＴ）フィルム上にキャストし、５０～１５０℃で送風乾燥してＮＭＰを完全に揮発させた上、同時に加熱硬化反応を行うことで、ポリマー電解質の前駆物となるシート状のポリマー電解質基材を得た。これらシート状ポリマー電解質基材の乾燥時の膜厚は約２０μｍであった。
なお、表１におけるアクリロニトリル単独重合体、アクリロニトリル系共重合体及び熱

硬化性樹脂組成物の物性値または商品名などは次の通りである。

アクリロニトリル単独重合体Ａ：重量平均分子量約４００，０００、アクリロニトリル単独重合体Ｂ：重量平均分子量約８００，０００、アクリロニトリル系共重合体Ａ：アクリロニトリル８０重量％とメタクリル酸メチル２０重量％とからなる重量平均分子量約８００，０００のアクリロニトリル－メタクリル酸メチル共重合体、アクリロニトリル系共重合体Ｂ：アクリロニトリル４５重量％とメタクリル酸メチル５５重量％とからなる重量平均分子量約４００，０００のアクリロニトリル－メタクリル酸メチル共重合体、熱硬化性樹脂組成物Ａ：レゾール型フェノール樹脂（昭和高分子社製　商品名：ＣＫＭ－９０８）、熱硬化性樹脂組成物Ｂ：ビスフェノールA型エポキシ樹脂（油化シェルエポキシ社製　商品名：エピコート８２８）６５重量％とフェノール樹脂（昭和高分子社製　商品名：ＢＲＧ－５５５）３５重量％を使用した樹脂組成物、熱硬化性樹脂組成物Ｃ：イソシアナート化合物（日本ポリウレタン社製　商品名：コロネートＨＸ）５０重量％とポリエチレングリコール（三洋化成工業社製　商品名：ＰＥＧ＃２０００）５０重量％を使用した樹脂組成物。